

<オンライン教学講座「報恩抄」② 参考資料>

◎依法不依人の事

仏は「依法不依人(法に依って人に依らざれ)」といましめ給えども、末代の諸人は「依人不依法(人に依って法に依らず)」となりぬ。

(御書新版 2147 ページ・新規収録)

◎立正安国論

ただ経文に就いていささか所存を述べん。

(御書新版 37 ページ・御書全集 27 ページ)

◎世界の青年と共に 新たな広布の山を登れ！

大聖人ほど法華経を身読された方はいません。御自身が「刀杖を加うる者有らん」「数数擯出せられ」等の経文の通り、命にも及ぶ幾多の大難に遭われ、妙法を弘めたことによって、法華経と釈尊の「未来記」が真実であることを証明されました。「依法不依人」「依了義経不依不了義経」の生き方を、自らが不惜身命で実践されたのです。

この大聖人の峻厳なる精神と行動を御書根本に継承してきたのが、創価の師弟です。大聖人の御聖訓を、広布と人生の糧とすることによって御本仏の「未来記」を実現し、「仏法西還」のままに全世界で、「人間革命」という生命変革のドラマを打ち立ててきました。

創価学会は、民衆の一人一人が自身に内在する仏界の生命を開いて、「智慧と慈悲」を発揮し、自他共の幸福を築いています。そして「賢き」「強き」「良き」世界市民を輩出しています。それは、毀誉褒貶の八風に左右されない、人間の尊厳に目覚めた民衆の連帯といってもよい。まさに、世界各地の同志が、釈尊が残した万人成仏の法華経の理想を体現し、大聖人が示された民衆救済の大道を力強く歩んで、希望と平和の行進を繰り広げているのです。

(『世界の青年と共に 新たな広布の山を登れ！』 49 ページ)

◎「開目抄」講義 第6章「誓願」

釈尊の説いた爾前の教法それ自体が即、謗法ということではありません。問題なのは、その教法に執着し、悪用して、法華経を誹謗する悪人であり、それこそが、謗法の元凶なのです。さらに言えば、そうした謗法の僧を支持する民衆の無明をこそ、克服していかなければ、末法の弘通は成り立ちません。

「元品の無明は第六天の魔王と顕われたり」(全 997・新 1331)と仰せのように、第六天の魔王の本質は、すべての人の生命に巣くう元品の無明です。そして、万人が自身の中の無明の闇を払うために、悪縁・悪知識には毅然たる態度で臨み、打ち破っていかないとはいけないのです。ゆえに、悪縁、悪知識に対しては、`油断するな、`見破れ、`戦え、と説くのが、仏教の正統な教えです。

(『池田大作全集』第 34 巻 98 ページ)

◎御義口伝

元品の無明を対治する利剣は、信の一字なり。

(御書新版 1047 ページ・御書全集 751 ページ)